土木学会　地震リスクと事業継続性に関する小委員会
第 2 回 WG-2：地震リスクマネジメントとリスクファイナンス
議事抄録

日時	2008 年 12 月 10 日（水）10:00-12:00
場所	土木学会 F 会議室
出席者	吉川、兼森、神田、小林、小路、中村、宮島、村地、大峯、山田 10 名（名簿順、敬称略）、欠席 1 名
配布資料	第 1 回 WG-2 議事抄録（資料 2-1）、モデルケーススタディ概要メモ（資料 2-2【製造】、資料 2-3【商業】、資料 2-4【電力】、資料 2-5【自治体】、資料 2-6 アンハイザーブッシュ社事例）

1. WG-2 第 1 回会合での決定事項（資料 2-1）に従い、SRM 事例の紹介（資料 2-6）およびモデルケーススタディの概要紹介（資料 2-2～2-5）を行った。

2. 上記を踏まえた議論の結果、以下の事項を決定した。
   - モデルケースの設定に際し、必ず SRM の基本方針・目標を設定する
   - モデルケースの基本となる仮想都市の設定（規模、地形その他）を行う
   - 上記仮想都市の設定のたたき台を 2008 年 12 月中に神田委員が作成し、WG-2 各委員に電子ファイルを送付する
   - 仮想都市の設定を踏まえて、各モデルケース担当者が構想を見直し、2009 年 1 月中にまとめて、幹事当てに電子ファイルを送付する

3. 議論に際して、下記のような意見が出された。
   - WG-2 の活動目標（SRM の普及・啓蒙）を念頭において、SRM の普及の障害となっている要素を解消するようなモデルケースを提示すべき
   - SRM の基本方針を明確にする必要がある（地震から何を守るのか）
   - SRM の目標や対象は、公共資本と民間資本で異なる
   - 地震対策と投資判断という視点が重要
   - 仮想都市の意味は、各モデルケースの相互関係を検討することにあり、始めに仮想都市の設定を行う必要がある
   - 仮想都市における各プレーヤーの連携により、強力な SRM を推進できる、という事実を示すことができる
   - 仮想都市の設定では、具体的な都市を元に設定を作成したほうが効率的（都市の規模は人口数十万人程度、内陸部の「市」レベルのイメージ、活断層と海溝型の地震源を想定、インフラ・防災拠点の特定、被害想定の設定）
   - モデルケーススタディでは、想定上の数値は示すが、その根拠は示さない
   - 原子力発電所については別途議論があるので、ここでは扱わない方が賢明ではないか

4. WG-2 次回（第 3 回）会合は 2 月 5 日 15:00-17:00（土木学会 E 会議室）。

WG-2 幹事：小林、村地